

詩篇85－89篇「帰還後の落胆」

1A 赦された後の訓練 85

1B 咎の赦し 1－3

2B 主の仰せを聞く者 4－13

2A 嘆願の力 86

1B 短い嘆願 1－5

2B 嘆願と賛美 6－17

3A シオンに属する者 87

4A 届かない祈り 88

1B 死への接近 1－12

2B 朝焼けへの期待 13－18

5A かなえられない約束 89

1B 神の真実と恵み 1－37

1C ダビデへの契約 1－4

2C 天からの恵み 5－18

3C ダビデへの恵み 19－37

2B 神の拒み 38－52

本文

詩篇 85 篇を開いてください。これから 85 篇から 89 篇まで読んでいきたいですが、これで詩篇の第三巻が終わります。

1A 赦された後の訓練 85

1B 咎の赦し 1－3

85 指揮者のために。コラの子たちの賛歌 85:1 主よ。あなたは、御国に恵みを施し、ヤコブの捕われ人を、お返しになりました。85:2 あなたは、御民の咎を赦し、彼らのすべての罪を、おおわれました。セラ

85 篇は、おそらくユダヤ人がバビロン捕囚の帰還後に書いた賛歌であろうと思われます。彼らは帰還して、そこに神の恵みを感じました。神の怒りの現われであったバビロン捕囚から解放されたことで、自分たちが確かに自分たちの咎を神が赦し、罪が覆われたことを実感していました。

2B 主の仰せを聞く者 4－13

85:4 われらの救いの神よ。どうか、私たちを生き返らせ、私たちに対する御怒りをやめてください。

85:5 あなたは、いつまでも、私たちに対して怒っておられるのですか。代々に至るまで、あなたの

御怒りを引き延ばされるのですか。85:6 あなたは、私たちを再び生かされないのですか。あなたの民があなたによって喜ぶために。85:7 主よ。私たちに、あなたの恵みを示し、あなたの救いを私たちに与えてください。

既に咎が赦され、罪が覆われたはずなのに、なぜ4節以降で御怒りをやめてくださいと祈っているのでしょうか？それは、エズラ記とネヘミヤ記を思い出すとよいと思います。彼らは帰還後も、周囲の敵によって脅しを受け、またペルシヤという異邦人の国に支配されていたからです。主が七十年後に、将来と希望の計画を与えると約束されたのに、それがあたかもかなえられていないように感じています。

これは、キリスト者の通る試練でもあります。罪が赦され、神に癒しを受けたという福音を受け入れました。そしてその喜びを手に入れました。けれどもその後、数々の苦しみの中に入れられるのです。また、過去に犯した罪によって引き起こされた災いが、その赦しを神から受けた後でなおのこと強く自分に迫ってくることもあるでしょう。そこで彼は、大切な祈りを捧げます。

85:8 私は、主であられる神の仰せを聞きたい。主は、御民と聖徒たちとに平和を告げ、彼らを再び愚かさには戻されない。

この著者は、主の前で襟を正そうとしています。「神の仰せを聞きたい。」と言っています。今、目の前で見えている状況は困難を極めているけれども、しかしそれでも、主が自分に何を語ってくださるのか、それを聞くために立ちどまります、と言っています。何が起きているか分からない時に、このように主の前に立ち止まることはとても大切です。預言者ハバククのことを思い出します。彼も、神がバビロンによってユダを裁くという啓示を受けた時に理解できなくなりました。そこで、こう言いました。「2:1 私は、見張り所に立ち、とりでにしかと立って見張り、主が私に何を語り、私の訴えに何と答えるかを見よう。」このようにしっかりと主が何を語られるか、じっくり見守っていたのです。そして主は彼に語ってくださいました。

ここでも同じで、彼は主から語りかけを受けました。初めに、「平和」が告げられています。私たちの魂は、主からの語りかけを受けると、どれだけ荒れていようが静まります。イエス様が、荒れていたガリラヤ湖の水を、「黙れ、静まれ」と言われたら静かになったのと同じです。

85:9 まことに御救いは主を恐れる者たちに近い。それは、栄光が私たちの国にとどまるためです。85:10 恵みとまこととは、互いに出会い、義と平和とは、互いに口づけしています。85:11 まことは地から生えいで、義は天から見おろしています。85:12 まことに、主は、良いものを下さるので、私たちの国は、その産物を生じます。85:13 義は、主の御前に先立って行き、主の足跡を道とします。

主が、確かに帰還の地で良い物で満たして下さると約束してくださっています。ここには、数多くイエス・キリストの救いの福音が詰まっています。一つは、「救いが近い」ということです。救いを得るために、天に上がったたり、地に降ったりする必要はない、「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」とパウロが言いました(ローマ 10:8)。

そして、「恵みとまこと」が互いに出会っている、と言っています。イエス様は、ヨハネ 1 章によると、恵みとまことに満ちておられました。まこととは、真実とも言いかえることができるし、真理とも言いかえることができます。どんなことが起こっても、いつまで立っても強く動じない、というような意味合いがあります。イエスご自身は真理であられます。しかし、恵みにも満ちておられます。福音の真理に従えば、私たちの隠れたことにしたがって、神は私たちを裁かれます。しかし、その怒りをご自分の御子の上で満たされたので、私たちには和解の言葉だけが与えられています。真理という厳しさと恵みという優しさは、十字架の上でであっています。

それから、「義と平和」とあります。これも同じく、キリストの福音に隠されています。神の義にしたがえば、私たちは神に敵対しており、ゆえに滅びを免れることはできません。しかし、その敵意をキリストの上に置かれました。それで、私たちには神との平和がキリストにあって存在します。「神が味方であるなら、だれが私たちに敵対するでしょうか。」とパウロは言いましたね。ですから、私たちは真理の中にながらにして、神の恵みにあずかることができるし、そして神の義を見ながらなおのこと平和でいられるのです。ああ、キリストの十字架がなんと尊いことでしょうか？天においては、この方がなおのこと小羊としてほめたたえられています。

2A 嘆願の力 86

86 ダビデの祈り

久しぶりに、ダビデの祈りです。第三巻の中ではここにだけ、彼の祈りがあります。86 篇の特徴は、続けざまに出てくる嘆願の祈りです。「～てください」という願いが短く出てきます。そしてダビデは、その嘆願をする理由も書いています。彼は、おそらくいろいろな思いを心に秘めていて、それでまとまったところを、願いにして主に知っていただいたのでしょう。神は、私たちの願いを聞かれるのを飽きることはありません。「ピリピ 4:6 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」

1B 短い嘆願 1-5

86:1 主よ。あなたの耳を傾けて、私に答えてください。私は悩み、そして貧しいのです。86:2 私のたましいを守ってください。私は神を恐れる者です。わが神よ。どうかあなたに信頼するあなたのしもべを救ってください。86:3 主よ。私をあわれんでください。私は一日中あなたに呼ばわっていますから。86:4 あなたのしもべのたましいを喜ばせてください。主よ。私のたましいはあなたを仰いでいますから。

一つ目は、「耳を傾けてください」です。なぜか？「悩み、貧しいのです」と言っています。悩んでいる、今、自分を支える力がない、だから聞いてくださいと言っています。そして二つ目は、「魂を守ってください。」です。おそらく、ダビデは追われている身なのでしょう。そして理由は、「神を恐れる者です」とあります。神を恐れるところに、魂の守りがあります。「ルカ 12:5-7 恐れなければならぬ方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

そして四つ目は、「憐れんでください」です。理由は、「呼ばわっていますから」ということです。主が私たちの祈り叫びを聞かれることによって、憐れみを示してください。そして五つ目は、「魂を喜ばせてください。」です。理由は、「あなたを仰いでいるから」であります。そうですね、主を仰ぐ者に、主は喜びを与えてくださいます。

86:5 主よ。まことにあなたはいつくしみ深く、赦しに富み、あなたを呼び求めるすべての者に、恵み豊かであられます。

これが、これらの願いを聞いてくださる基になっている神のご性質です。主がモーセに対して、後姿の栄光をお見せになった時、ご自分の名を宣言されて、このことを語られました。私たちが聖書を読む時に、特にこれは旧約聖書において神がご自身を啓示されたのですから、このご性質から離れて語られているものはないのです。私たちがこれとは異なる神の姿を見るのであれば、それは私たちの先入観、心の窮屈さが影響しているものであり、本物の神の姿ではないのです。

2B 嘆願と賛美 6-17

86:6 主よ。私の祈りを耳に入れ、私の願いの声を心に留めてください。86:7 私は苦難の日にあなただを呼び求めます。あなたが答えてくださるからです。

ここでは単に願いだけに終わっていません。むしろ、答えてくださるという確信が与えられています。今、主がどのような方かを思い出したからです。

86:8 主よ。神々のうちで、あなたに並ぶ者はなく、あなたのみわざに比ぶべきものはありません。
86:9 主よ。あなたが造られたすべての国々はあなたの御前に来て、伏し拝み、あなたの御名をあげましょう。86:10 まことに、あなたは大きな方、奇しいわざを行なわれる方です。あなただけが神です。

異邦人にも神々と呼ばれるものはあるけれども、私たちの神、主のみがこれだけ偉大なことを成

し遂げてくださる、だからあなただけが神だ、ということです。そうですね、私たちの周りの先祖伝来の神々はもちろんのこと、私たちに「これが道だ」と呼ばれているものは空しさしかありませんでした。

86:11 主よ。あなたの道を私に教えてください。私はあなたの真理のうちを歩みます。私の心を一つにしてください。御名を恐れるように。

再び嘆願です。「あなたの道を教えてください」であります。そしてその嘆願にふさわしい理由を挙げています。「真理のうちを歩みます」です。自分に真理の内を歩むという意志がなければ、道を教えてもらう意味がありません。

そして、大事な願いが次にあります。「私の心を一つにしてください。」であります。その反対が「二心」です。神に仕えると言いながら、世を愛するという二心です。今、神々のことをダビデは話しましたが、主に仕えていながら、他の神々に仕えていたのでイスラエルは裁かれました。ヤコブは、「二心の人たち。心を清くしなさい。(4:8)」と言っています。

86:12 わが神、主よ。私は心を尽くしてあなたに感謝し、とこしえまでも、あなたの御名をあがめましょう。86:13 それは、あなたの恵みが私に対して大きく、あなたが私のたましいを、よみの深みから救い出してくださったからです。86:14 神よ。高ぶる者どもは私に逆らって立ち、横暴な者の群れは私のいのちを求めます。彼らは、あなたを自分の前に置いていません。86:15 しかし主よ。あなたは、あわれみ深く、情け深い神。怒るのにおそく、恵みとまことに富んでおられます。

主に対する嘆願を続けているうちに、主をほめたたえるようになり、自分が救われるという確信を得ました。使徒ヨハネも、このような祈りがあることを教えています。「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでになんげられたと知るので。(1ヨハネ 5:14-15)」私たちの神は永遠の方です。祈りを聞かれる時、それをかなえるのが十年後であるとしても、今すぐにその願いを兼ねておられます。主が聞いておられる、そしてその願いをご自分のご計画の中でかなえておられる、この確信は貴重です。

86:16 私に御顔を向け、私をあわれんでください。あなたのしもべに御力を与え、あなたのはしための子をお救いください。86:17 私に、いつくしみのしるしを行なってください。そうすれば、私を憎む者らは見て、恥を受けるでしょう。まことに主よ。あなたは私を助け、私を慰めてくださいます。

最後の嘆願をしています。御顔を向けて、憐れんでください。救ってください。慈しみの印を行ってください。そしてそれが、憎む者たちへの仕返しになります。敵が敗北するのは、敵に攻撃するのではなく、自分がしっかりと立つことです。自分が主にあつて幸せであることこそが、敵に恥を与

えます。ネヘミヤ記において、五十二日で城壁の再建を完成させたら、こうネヘミヤは言っています。6:16 私たちの敵がみな、これを聞いたとき、私たちの回りの諸国民はみな恐れ、大いに面目を失った。この工事が、私たちの神によってなされたことを知ったからである。」

3A シオンに属する者 87

87 コラの子たちの賛歌。歌 87:1 主は聖なる山に基を置かれる。87:2 主は、ヤコブのすべての住まいにまさって、シオンのもろもろの門を愛される。87:3 神の都よ。あなたについては、すばらしいことが語られている。セラ 87:4 「わたしはラハブとバビロンをわたしを知っている者の数に入れよう。見よ。ペリシテとツロ、それにクシュもともに。これらをもここで生まれた者として。」

私たちは午前礼拝の 84 篇における学びで、シオンの山について学びました。それは地上のエルサレムも表すが、将来的には天のエルサレムも指し示していることを学びました。ここでは、まず地上のエルサレムについて考えます。ダビデが建てたエルサレムの町、その門を主は愛されています。そして、そこにイスラエルの敵どもがその住民に登録するように、神が招いておられるのです。ラハブとはエジプトのことです。そしてバビロンもペリシテも、敵であることを知っていますね。ツロは、主によって裁きがエゼキエル書でもイザヤ書でも宣言されています。クシュはエチオピアですが、これもイザヤ書 18 章と 20 章に裁きの預言があります。

それにも関わらず主がエルサレムの住民に招いているというのは、全くの神の恵みなのです。覚えていませんか、ツロとシドンの地方にイエス様が行かれた時に、カナン人の女が娘から悪霊を追い出してくださいように嘆願しました。イエス様は無視しておられ、それから、「わたしは、イスラエルの滅びた羊以外のところには遣わされていない。」と答えられました。それでも彼女は、「主よ。私をお助けください。」と引き下がりません。イエス様は、「子どもたちのパンを取り上げて、子犬に与えるのはよくない。」と言われますと、女は、「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」と答えたのです。(マタイ 15:21-28) 全くその資格がないのに、それでも神の憐れみによってそのおこぼれにあずかるという信仰であります。

これが、使徒パウロの言う「あなたがたは、神の恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。(エペソ 2:8)」という言葉であります。何か私たちの中に、救われる素質があって救われるものではありません。むしろ、呪いを受けるのが当然なのです。バビロンも神から永遠の滅びを宣言されました。他にも呪いを受けるべき民です。カナン人の女も、神から聖絶せよとイスラエルに命じられた人々です。しかし、信仰によって神に近づく者を神は憐れむだけでなく、豊かに恵んでくださいます。イスラエルの祝福に、異邦人もあずかるようにして下さったのです。

87:5 しかし、シオンについては、こう言われる。「だれもかれもが、ここで生まれた。」と。こうして、いと高き方ご自身がシオンを堅くお建てになる。

シオンについてとは、シオンに初めから住む者たちのことです。エルサレムの住民です。彼らこそが神から生まれた初子であるはずですが、新約聖書は逆説に満ちています。その彼らが、彼らのために来られたメシヤを拒み、求めていなかった異邦人がメシヤの福音を受け入れていきました。しかし、ここに約束されているとおりの主は終わりに、ご自分の選ばれた民をも救ってくださるのです。「ローマ 11:25-27 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思えないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりで、「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」」

87:6 主が国々の民を登録される時、「この民はここで生まれた。」としるされる。セラ 87:7 踊りながら歌う者は、「私の泉はことごとく、あなたにある。」と言おう。

すばらしいのは、異邦人であっても同じように、ここに生まれた者として登録されることです。そして、シオンにある泉を飲むことができます。これは天のシオンの幻、黙示録 21-22 章の中にあります。イスラエル十二部族だけでなく、十二使徒の教えの上に立っている者はみなその、神の都の中に入っています。そして、都の中央から生ける水が流れています。私たちは、この永遠の都を心に既に宿しているのです。神がイエスの名によって私たちを生んでくださり、その泉を私たちの内に置いてくださいました。

4A 届かない祈り 88

88 歌。コラの子たちの賛歌。指揮者のため。マハラテ・レアノテの調べに合わせて。エズラフ人ヘマンのマスキール

「ヘマン」は、ダビデが任命したレビ人のかしらが、歌うたいとして選んだ者です。この賛歌は、詩篇の中でもっとも暗いものだと言われます。絶望の淵に入れられて、そこから立ち上がることができません。他の賛歌では、どんなに暗いところにいようと、そこから感謝と賛美に変わっていきました。しかし、これは違います。最後まで嘆きの中において、それで終わってしまうのです。しかし、その中でもヘマンの信仰を見ることができます。暗闇の中にある信仰を見つけてみたいと思います。

1B 死への接近 1-12

88:1 主、私の救いの神。私は昼は、叫び、夜は、あなたの御前にいます。88:2 私の祈りがあなたの御前に届きますように。どうか、あなたの耳を私の叫びに傾けてください。88:3 私のたましいは、悩みに満ち、私のいのちは、よみに触れていますから。88:4 私は穴に下る者とともに数えられ、力のない者のようになっています。88:5 死人の中でも見放され、墓の中に横たわる殺された者のようになっています。あなたは彼らをもはや覚えてはおられません。彼らはあなたの御手から

断ち切られています。88:6 あなたは私を最も深い穴に置いておられます。そこは暗い所、深い淵です。88:7 あなたの激しい憤りが私の上にとどまり、あなたのすべての波であなたは私を悩ましておられます。セラ

穴に下る、というのは陰府に下ることです。彼は今、自分が死にそうになっているということを話しています。そして墓に葬られたら、地上では誰からも覚えられず、自分は地の深い所、深い淵の中に入ると言っています。このように落ち込み、鬱の波が彼の上を勢いよく押し寄せています。しかしヘマンはしっかりと、初めに主を「私の救いの神」と呼んでいます。どんなに死の淵に下がろうと、自分は主の前にいると叫んでいます。

88:8 あなたは私の親友を私から遠ざけ、私を彼らの忌みきらう者とされました。私は閉じ込められて、出て行くことができません。88:9 私の目は悩みによって衰えています。主よ。私は日ごとにあなたを呼び求めています。あなたに向かって私の両手を差し伸ばしています。

病に陥る時に、友人らが去っていくというのは、残念ながら人間の現実です。ヨブもそのことを嘆いていました。そして、イエスご自身が弟子たちが逃げて、ペテロは三度否みました。けれども、主に対して呼び求め、両手を差し伸ばしている姿を見ます。

88:10 あなたは死人のために奇しいわざを行なわれるでしょうか。亡霊が起き上がって、あなたをほめたたえるでしょうか。セラ 88:11 あなたの恵みが墓の中で宣べられましょうか、あなたの真実が減びの中で。88:12 あなたの奇しいわざが、やみの中で知られるでしょうか、あなたの義が忘却の地で。

詩篇の中には数多く出てきますが、主に死なせないでほしいと嘆願する時に、地上で主をほめたたえ、恵みの業を宣べ伝えることができなくなるではないか、という訴えがあるのです。まだ、この地上でやるべきことがあるではないですか、という訴えです。確かにパウロは、肉体に留まるのは、有益であると言っています(ピリピ 1:24)。なぜなら、ピリピの人たちのためにまだ奉仕ができるからです。けれども基本的に彼は、死んだ方がはるかにすばらしいと言っています。それは死んで、それで主のところに行けるからだ、ということです。

旧約時代における祈りと、新約のそれとはなぜこれだけ違うのでしょうか？違いは、「贖いの完成」です。贖いが、動物の血によって罪が「覆われる」ことはあっても、取り除かれているわけではありません。旧約聖書における「贖い」の意味は、飽くまでも覆うことです。けれども新約に入って、イエスが十字架に付けられました。そこで「完了した」と言われました。このことによって初めて、罪が取り除かれ、贖罪は完了したのです。したがって、福音書にはラザロと金持ちの話があります。これはイエス様がまだ十字架に付けられる前のことです。どちらも陰府に下っていますが、そこに二つの区画がありラザロは「アブラハムのふところ」ということで慰めを受け、金持ちは苦しみのと

ころにあります。けれども、キリストが死なれて陰府に下られました。そして勝利を宣言されました。それから囚われの身にいたこれら聖徒たちは、天の中に入ることができたのです。それが、旧約の人たちがはっきりと、死後の希望を宣言できなかった理由です。

2B 朝焼けへの期待 13-18

88:13 しかし、主よ。この私は、あなたに叫んでいます。朝明けに、私の祈りはあなたのところに届きます。88:14 主よ。なぜ、私のたましいを拒み、私に御顔を隠されるのですか。88:15 私は若いころから悩み、そして死にひんしています。私はあなたの恐ろしさに耐えてきて、心が乱れています。88:16 あなたの燃える怒りが私の上を越え、あなたからの恐怖が私を滅ぼし尽くしました。88:17 これらが日夜、大水のように私を囲み、私を全く取り巻いてしまいました。88:18 あなたは私から愛する者や友を遠ざけてしまわれました。私の知人たちは暗い所にいます。

このように、暗い所にいるとって賛歌が終わってしまうのです。けれども 13 節には、「朝明けに、私の祈りはあなたのところに届きます。」と言って、朝明けが来ることを信じていたのです。彼は、今は暗い所にいるけれども、必ず明るくなれると信じていました。

思えば、聖書というのは「夜」を多く描いています。実に創世記 1 章、世界の始まりは夜からでした。そこで大事なことは、「夕があり、朝があった。」という表現です。そのためユダヤ人は、今でも一日は日没から数えます。安息日は、金曜日の日没から土曜日の日没までです。このように夜から一日が始まり、そして朝が来るというのは、贖いの歴史そのものではないでしょうか。罪が世界に入り、それが始まりでした。夜から始まりました。そしてキリストの十字架は夜そのものでした。けれども、いつまでも夜ではありません、朝が来ます。それでキリストが再臨されるのは、夜明けそのものであり、新天新地で昼が来るのです。

この詩篇を読むと、イエス様の十字架上の祈りにも聞こえます。朝を待っているけれども、まだ夜であったことを嘆いているのはイエス様も変わらなかったのではないかと思います。そして、死に至るまでその状態だったのです。そしてイエス様がそうであったように、暗闇の次には昼があります。救いがあります。復活の命があるのです。「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。(ピリピ 3:10-11)」

5A かなえられない約束 89

89 エズラフ人エタンのマスキール

エタンは、ソロモンの時代、賢い人の一人として登場します。(1列王 4:31)けれども、時代的にはおそらく、ユダヤ人のエルサレム帰還の後に歌われたのではないかと考えられます。ですから、85 篇と同じです。初めは、主が回復してくださるという期待をもって戻ってきました。ところが、周囲

の敵に囲まれるなど、その約束とは裏腹のことが起こります。それで希望を失っていくのです。けれども、88 篇にあったように、たとえそうであっても御心は必ず実現する希望があります。

1B 神の真実と恵み 1-37

1C ダビデへの契約 1-4

89:1 私は、主の恵みを、とこしえに歌います。あなたの真実を代々限りなく私の口で知らせます。
89:2 私はこう言います。「御恵みは、とこしえに建てられ、あなたは、その真実を天に堅く立てられる。」と。89:3 「わたしは、わたしの選んだ者と契約を結び、わたしのしもべダビデに誓っている。
89:4 わたしは、おまえのすえを、とこしえに堅く立て、おまえの王座を代々限りなく建てる。」セラ

これは、これから歌う中で 37 節までにあるものを、まとめていっているものです。神の真実は世々限りなく続くということ。そして、天においてその真実が堅くされているということ。そのことに基づいてダビデに対しても、その王座が世々限りなく続くという約束が与えられていたことを話しています。

2C 天からの恵み 5-18

89:5 主よ。天は、あなたの奇しいわざをほめたたえます。また、聖徒たちの集まりで、あなたの真実をも。89:6 まことに、雲の上ではだれが主と並びえましょう。力ある者の子らの中でだれが主に似ているでしょう。89:7 主は、聖徒たちのつどいで大いに恐れられている神。主の回りのすべての者にまさって恐れられている方です。

天において、神の御業がほめたたえられていることをほめたたえています。「力ある者の子ら」というのは、天使のことです。聖徒たちだけでなく、天使たちも共に礼拝に参加しています。そして天は、いつも星を輝かせ、太陽を輝かせ、いつもと変わらず、ずっと私たちを照らし続けます。ここに、神の真実が表れているのです。

89:8 万軍の神、主。だれが、あなたのように力がありましょう。主よ。あなたの真実はあなたを取り囲んでいます。89:9 あなたは海の高まりを治めておられます。その波がさかまくとき、あなたはそれを静められます。89:10 あなたご自身が、ラハブを殺された者のように打ち砕き、あなたの敵を力ある御腕によって散らされました。

続けて、神の真実は海にも現われます。海が波を立てても、いつまでも高くなっていくわけではありません。ラハブとは、先に話したようにエジプトを指していますが、彼らが海の中で沈みました。同じように、高くなった波をどこかで落とすその姿に、神のいつも同じようにしてくださっている真実を見ることができます。

89:11 天はあなたのもの、地もあなたのもの。世界とそれを満たすものは、あなたがその基を据

えられました。89:12 北と南、これらをあなたが造られました。タボルとヘルモンはあなたの御名を高らかに歌います。89:13 あなたは力ある腕を持っておられます。あなたの御手は強く、あなたの右の手は高く上げられています。

天においても、地においても、神をほめたたえています。イスラエルの代表的な高い山、タボル山はイズレエル平野の東側にあります。ヘルモン山はイスラエルの最北にあります。

89:14 義と公正は、あなたの王座の基。恵みとまことは、御前に先立ちます。89:15 幸いなことよ、喜びの叫びを知る民は。主よ。彼らは、あなたの御顔の光の中を歩みます。89:16 彼らは、あなたの御名をいつも喜び、あなたの義によって、高く上げられます。89:17 あなたが彼らの力の光栄であり、あなたのご恩寵によって、私たちの角が高く上げられているからです。89:18 私たちの盾は主のもの、私たちの王はイスラエルの聖なる方のものだからです。

神ご自身を王としてお迎えしています。神は義と公正に満ちた方であり、また恵みとまことにも満ちておられる方です。そして、主を喜んでいる人々は、その光栄の中に預かっています。そして 19 節からダビデの選びについて話していきますが、その前にエタンは、神ご自身が王なのだということをお忘れしません。ダビデも王でしたが、その王位を歌う前に、神ご自身が王でありました。

3C ダビデへの恵み 19-37

89:19 あなたは、かつて、幻のうちに、あなたの敬虔な者たちに告げて、仰せられました。「わたしは、ひとりの勇士に助けを与え、民の中から選ばれた者を高く上げた。89:20 わたしは、わたしのしもべダビデを見だし、わたしの聖なる油を彼にそそいだ。89:21 わたしの手は彼とともに堅く立てられ、わたしの腕もまた彼を強くしよう。89:22 敵が彼に害を与えることはなく、不正な者も彼を悩ますことはない。89:23 わたしは彼の前で彼の仇を打ち砕き、彼を憎む者を打ち倒そう。89:24 わたしの真実とわたしの恵みとは彼とともにあり、わたしの名によって、彼の角は高く上げられる。89:25 わたしは彼の手を海の上に、彼の右の手を川の上に置こう。

主がダビデを選ばれたことを歌っています。彼の生涯には、神の真実と恵みがありました。神の真実とは、神が確かにダビデを苦しみから救ってくださったという真実です。そして恵みは、ダビデがどんなに優れた人であっても、罪を犯してしまった。それにも拘らず、神は良くしてくださることです。

89:26 彼は、わたしを呼ぼう。『あなたはわが父、わが神、わが救いの岩。』と。89:27 わたしもまた、彼をわたしの長子とし、地の王たちのうちの最も高い者としよう。89:28 わたしの恵みを彼のために永遠に保とう。わたしの契約は彼に対して真実である。89:29 わたしは彼の子孫をいつまでも、彼の王座を天の日数のように、続かせよう。89:30 もし、その子孫がわたしのおしえを捨て、わたしの定めのうちを歩かないならば、89:31 また、もし彼らがわたしのおきてを破り、わたしの

命令を守らないならば、89:32 わたしは杖をもって、彼らのそむきの罪を、むちをもって、彼らの咎を罰しよう。89:33 しかし、わたしは恵みを彼からもぎ取らず、わたしの真実を偽らない。89:34 わたしは、わたしの契約を破らない。くちびるから出たことを、わたしは変えない。89:35 わたしは、かつて、わが聖によって誓った。わたしは決してダビデに偽りを言わない。89:36 彼の子孫はとこしえまでも続き、彼の王座は、太陽のようにわたしの前にあろう。89:37 それは月のようにとこしえに、堅く立てられる。雲の中の証人は真実である。」セラ

ダビデが神の長子であると書かれています。これは確かに、ダビデが与えられた約束と契約があります。彼の王座は永遠にあること。彼の子孫も長く続くこと。そして背いたら懲らしめを受けるが、恵みはもぎとることはしないこと。そしてまとめとして、いつまでも月のように堅く立てられる、とのことです。しかし、ダビデ自身に対して話しているのであれば、少し大げさです。これは、ダビデの子キリストご自身のことでした。ダビデの子とイエス様は呼ばれていましたが、確かにキリストにあってこのことは成就します。キリストによって神の御国が地上に打ち立てられます。

2B 神の拒み 38-52

けれども、この時にバビロン捕囚からの帰還民であれば、葛藤が激しかったでしょう。王が捕え移されていないなくなり、戻ってきてダビデ王朝が神の約束に従って、立てられなければいけないと思っています。それはとこしえまで続く御国だからです。そのことを持って、彼らは礼拝していました。メシヤが来ることを信じて礼拝していたのです。ところが、一向にその気配がない。それで落胆しているのがこの賛歌です。

89:38 しかし、あなたは拒んでお捨てになりました。あなたによって油そそがれた者に向かって、あなたは激しく怒っておられます。89:39 あなたは、あなたのしもべの契約を廃棄し、彼の冠を地に捨てて汚しておられます。89:40 あなたは彼の城壁をことごとく打ちこわし、その要塞を廃墟とされました。89:41 道を通り過ぎる者はみな、彼から奪い取り、彼は隣人のそしりとなっています。89:42 あなたは彼の仇の右の手を高く上げ、彼の敵をみな喜ばせておられます。89:43 そればかりか、あなたは彼の剣の刃を折り曲げ、彼が戦いに立てないようにされています。89:44 あなたは、彼の輝きを消し、彼の王座を地に投げ倒してしまわれました。89:45 あなたは、彼の若い日を短くし、恥で彼をおおわれました。セラ

今、ダビデに対して神がしてくださると言っていたこと、一つ一つがそのようになっていない、むしろ反対のことが起こっているとしました。

89:46 主よ。いつまででしょうか。あなたはいつまでも身をお隠しになるのでしょうか。いつまで、あなたの憤りは火のように燃えるのでしょうか。89:47 どうか、心に留めていてください。私がどれだけ長く生きるかを。あなたはすべての人の子らをいかにむなしいものとして創造されたかを。89:48 いったい、生きていて死を見ない者はだれでしょう。だれがおのれ自身を、よみの力から救い出せ

ましよう。セラ 89:49 主よ。あなたのさきの恵みはどこにあるのでしょうか。それはあなたが真実をもってダビデに誓われたものです。89:50 主よ。心に留めてください。あなたのしもべたちの受けるそしりを。私が多くの国々の民のすべてをこの胸にこらえていることを。89:51 主よ。あなたの敵どもは、そのようにそしり、そのように、あなたに油そそがれた者の足跡をそしりました。

これらが、今、彼らが受けていた仕打ちです。ダビデを王とする国を約束されていて、そこには真実と恵みがあるのに、そのようになっていない、これでは油注がれた者がそしりを受けていると嘆いています。

89:52 ほむべきかな。主。とこしえまでも。アーメン。アーメン。

第三巻が終わるので、最後に頌栄を入れてあります。けれども基本的に、先の 88 篇と同じく嘆きのまま終わっています。これが、旧約の限界なのかもしれません。律法においては、モーセが約束の地に入れなかったということで終わっています。預言書においては、マラキが主の恐ろしい日が来て、呪いを受ける者は受けることで終わっています。旧約においては、まだ闇の中に光が来ていなかったのです。約束はされていたけれども実現していませんでした。それで、イエス・キリストがダビデのご自身であり、恵みとまことがこの方であって実現しました。

神の約束ではこうなっているはずなのに、いつまでもそうならないと私たちは氣落ちします。しかし、それは主が遅らせているのではありません。「もしおそくなっても、それを待て。それは必ず来る。遅れることはない。(ハバクク 2:3)」ラザロが死んだ時のことを思い出してください。マルタとマリヤの兄弟です。彼が死んでから四日経って、それでイエス様は初めてベタニヤに着きました。死にそうになっているという知らせを受けて、そこに二日も留まっていたのです。それで歩き出すと二日たって、それでラザロは既に死んでいたのです。その時にマルタもマリヤも悲しみに中にいました。しかし、イエス様は遅らせたのではありません。むしろ、病を治すことよりもはるかに、死者の中からよみがえらせる御業を彼らにお見せになりたかったからです。

待つのです。主は必ず、ちょうど良い時に約束を実行して下さいます。